

地域経済

製造・農業の新たな取り組みを追う

コンビニ連携で直売イベント



玉東町のナシ

▲「ひとつ食べてみませんか」と来店者に試食をすすめる WAKA・MON のメンバー



▲一つずつナシの皮をむき、すりおろして作る「梨じゅる」

玉東町の若手農業後継者と商工業者の団体「WAKA・MON」は、まちおこしプロジェクトの第一弾として玉東産ナシの直売イベントを開催した。玉東町木葉のローソン玉東店のオーナー、上平靖男さんが玉東町商工会に加盟していることから成立したコラボ企画で、夏に向けて収穫のピークを迎えるナシを同店の駐車場に設置したテントで販売した。

「交通量の多い国道208号に面する立地を生かし、農産連携で玉東ブランドの手助けをしたい。場所と電気、水道を提供し、買ったナシを店内から全国に発送できるようにしている」と上平さんは説明する。

イベントではナシの購入特典として規格外のナシをすりおろして冷やした手作りのジュース「梨じゅる」を提供した。イベントを企画した WAKA・MON の大隅正信さんは「規格外のナシをおいしく食べてもらうために様々な工夫をしたが、シンプルにすりおろしただけのものを冷やすと美味しかった。美味しい食べ方があればぜひ教えてほしい」と話している。

玉東町の若手農業後継者と商工業者の団体「WAKA・MON」は、まちおこしプロジェクトの第一弾として玉東産ナシの直売イベントを開催した。玉東町木葉のローソン玉東店のオーナー、上平靖男さんが玉東町商工会に加盟していることから成立したコラボ企画で、夏に向けて収穫のピークを迎えるナシを同店の駐車場に設置したテントで販売した。



主催：熊本県・熊本製粉株式会社

▲「米粉料理」を発表する(左から)古賀幹雄熊本製粉社長、蒲島郁夫知事、料理を監修した郷土料理「青柳」若女将の倉橋恭加さんと料理長の松村健司さん



▲発表会には飲食、洋菓子、ホテル関係者などが参加



▲米粉を使ったディップを野菜に付け試食する蒲島知事と古賀社長

当日発表した「野菜の粉」シリーズ「米ティップ」「米マカロニ」「米コンスープ」「米ロール」の5品

今回のコンセプトは、米粉を使つた「女性に嬉しいコースメニュー」(5品)。メインディッシュの「米粉の生パスタ風野菜のソースと和牛ボール」には、同社が開発した通常のロール圧延式製麺機で作れる米粉50%配合のパスタを使用。米粉のもっちりとした特徴を生かした。

県では熊本製粉と共同で米粉を使ったオリジナル商品を開発、飲食店や食品製造業者などへの技術提供を通じて、米粉食品の取り扱いを県内100社程度に増やすことを目標にしている。

連携して県産米粉の普及、需要拡大に取り組み県と熊本製粉(株)(熊本市、古賀幹雄社長)は、来年3月の九州新幹線全線開業も視野に、米粉を使った「おもてなし料理」の発表、試食会を8月18日、花園1丁目の同社技術センターで開いた。

県と熊本製粉 新幹線開業視野に女性向けコースメニュー 米粉で「おもてなし料理」



▲地上12階地下1階建ての東病棟

熊本大学医学部付属病院(熊本市本荘1丁目、猪股裕紀院長)はこのほど、敷地内に建設していた地上12階地下1階建て東病棟を完成させた。9月21日から利用を始めた。場所は同大学本荘キャンパス北地区の臨床講義棟跡地。2002年に新築した西病棟と一体化して整備したもので、07年11月に着工した。規模は鉄骨鉄筋コンクリート造り地上12階地下1階建て、延べ床面積は約2万㎡。免震装置を備え、災害拠点病院としての機能を強化する。

この東病棟の完成に合わせて、既設の西病棟診療科病床の配置を見直し、西・東病棟の関連診療科が連携した「フロアーセンター化」を図った。フロア構成は地下1階がベッド管理センターなど、1階が薬剤部と管理サービス部門、2階が整形外科、3階が消化器内科、4階が消化器外科、5階が循環器内科とCCU(冠状動脈疾患管理室)、6階が心臓血管外科とHCU(準集中治療室)、7階が婦人科と乳腺内分分泌科、8階が小児外科・移植外科と小児科・発達小児科、共通(放射線治療科)、緩和ケア病床、9階が眼科と糖尿病センター、10階が歯科口腔(こうくう)外科と泌尿器科、11階が呼吸器内科と呼吸器外科、12階が院内学級と多目的ホール、ライブラリーインフォメーション。病床数は433床。

地上12階地下1階建て東病棟が完成 熊大医学部付属病院 21日から利用開始



▲有料老人ホーム「ヴィラ・メルロ」の完成イメージ

同ホームの名称はイタリヤ語の別荘と鳥を組み合わせた「ヴィラ・メルロ」。老人保健施設の退所者などの受け皿として、4年前から計画していた。場所は国道3号沿い、宮原バス停向かい。延べ床面積は約3829㎡。1階は受付、事務所、多目的ホール、ちゅう房、当直室で、ペアガラスを使用、床暖房を施した。2、4階は入居者の個室で合計80室。各フロアには談話室と天然温泉の共同浴場を設ける。

介護老人保険施設ケアビレッジ箱根崎などを運営する医滄渙会(そうめいかい)、熊本市植木町、中原紘嗣理事長は、同地の施設西側に建設している80室の住宅型有料老人ホームを2011年2月にオープンする。また、今秋には同ホーム裏手にデイサービスセンター建設に着手、同4月に完成の予定。

来年2月に80室の有料老人ホームオープン 渙渙会 今秋にはデイサービスセンターを建設へ



▲帯山8丁目の県運転免許センター跡地

掘尾会 熊本託麻台病院の病棟機能など移転へ 運転免許センター跡地を落札

医療・福祉の「キューズ」 KUMAMOTO